



栗田谷中学校

重要性を伝えること

〇目次

人間科学科 4年 矢島 芽以

重要性を伝えること 人間科学科 4年 矢島 芽以
新たな環境を体験して 人間科学科 3年 小林 祐子
ATとして生徒と関わる 英語英文学科 3年 滝沢 栞菜
ATという立場になって 物質生命化学科 2年 高杉 俊
ATとしての目標 人間科学科 2年 田畑 龍人
学校生活での生徒達 経済学科 科目等履修生 水谷 優秀

栗田谷中学校にアシスタントティーチャー(AT)として行き始めてから2年が経ちました。卒業・入学をある程度経験していたため、新学期の生徒との接し方が慣れてきたと今年度が始まるまでは感じていました。しかし先生が変わり、生徒が入れ替わることで多くのことが変化し、初日に行ったときの雰囲気の変りようはとても驚くものでした。今までいた1、2年生が進級し今までよりずっと先輩としての意識がでて、1年生はそのような先輩の姿を真似することで学校生活に慣れようとしていました。さらに先生が変わったことでクラスの雰囲気にまた異なる色が出ていました。

今回ボランティアに行く際の目標として、新入生のキャラクターを理解しそれに合った支援をしていくとしていました。1年生は4月にボランティアとして行っていたときにはまだ中学校には慣れていなく、中学校で鳴るチャイムでの着席ができないことや、できない課題に対してよくない対応をしていました。分からない時自分がわからないことを示すために課題から顔などを背けたり、いきなり歌いだしてしまったりしてなかなか自分の気持ちを表現する力がありませんでした。さらに、他人に対しての距離が近くハグなどを求められることもあり、私自身戸惑いを感じました。そこで先生方は自分の気持ちを表現させることをさせたり、社会にでて自立した生活をするためにあまりしないようなハグに関しては「中学生はそんなことをしません」と伝え、1年生がそのような行動をすると注意をしていました。注意の仕方やどの程度生徒の欲求を受け入れるかが私も理解できたので、そのような行動を見かけたら、どの程度までいいと線引きを伝えることを意識して話しかけるようにしました。今ではチャイム前には次の準備をし、すぐ移動をするという習慣がついたことで昼休みと授業の区別がつけられるようになってきています。また、できないこともできませんや教えてくださいといった言葉による気持ちの表現が徐々にできていました。さらにあまり良くない行動も注意されるとハッとした顔になり、少しずつではありますがやめられるようになってきました。

最初はなかなかできないのは当たり前で、根気よくよい行動を習慣化させることにより、自分の行動を客観視できるようになると感じました。生徒は正直あまり聞いているようには見えていなくても伝えることは理解できており、ついよくない行動をやってしまうようでした。そこをこちらがどれくらい根気よく大事だと伝えられるかや、見て見ぬフリをしないかがとても重要だと感じました。最近では私がどのような人が理解したようで、4月よりは、聞いた上で行動に移してくれるようになりました。まだまだ生徒には様々な生活上での困難やなかなか成長したらやらないようなよくないことがあります。どうしてよくないのかを根気よく伝えていき、生徒のよい成長に結び付けられるような支援をしていきたいです。

新たな環境を体験して

人間科学科3年 小林 祐子

私は、今年度の4月から栗田谷中学校の主に保健体育のATとして活動しています。1年生の頃から何となく友人からATの活動の様子を聞いていて、参加したいと思っていました。しかし勉強と部活動、アルバイトの都合、そして教員の道を歩んでいくのか決心がつかなかったため、行動に移せずにいました。そして、やっと決心がついて今年度よりATを始めました。この2ヶ月間は主に1年生と特別支援学級の保健体育と、各学年の道徳の時間をみえています。自分とは生まれも育ちも違う環境で生活している先生や生徒たちと接するので、価値観の違いがあるのではないかと、初めのうちは不安がありました。

実際にATとして、学校全体の雰囲気や生徒、先生方を観察してみると、やはり私が育った環境とは大きく異なる点が多く見受けられました。まずは男女の仲です。栗田谷中学校の1年生は比較的男女仲が良く、常に会話が絶えない生徒たちです。私が中学生のころは、学校生活で男女の会話はほとんどなく、全体的に静かでなにか物足りませんでした。そのため、会話が絶えず、男子が率先して授業を盛り上げている生徒たちをみてとても感心しました。また、積極的に話しかけてくれる生徒も多いため、早く学校に慣れることができたと感じています。しかし一方で、生徒たちが元気すぎるあまり自己主張が激しく、先生が話しているときでも生徒間の会話は絶えず、教室内の授業の時はいきなり立ち上がって、ごみを捨てに行ったり、ロッカーにものを取りに行ったり、さらには先生に対して反抗する生徒も見受けられます。私はこの状況にうまく対処できず、ただじっと見ていてだけで、ATとしての役目を果たす事ができずにいます。そんなときは、先生方からいただいたアドバイスをもとに、今後がことが起こってから注意するのではなく、起こる前に気づかせるという方法をとってみたいと思います。

また、私はこの学校で初めて体験したことがあります。それは個別学級制度です。私の中学校時代も、情緒面で多少障がいをもっているが、普通の学級で生活する生徒はいました。しかし個別の学級は初めてです。授業で話は聞いていましたが、実際に接するととなると、どのように接していいのかわかりませんでした。そのため、初めのうちは会話も成り立たず、ただ授業の様子を見ているだけにとどまっていたました。しかし、先生に相談したところ、初めのうちは見るだけでいいから、観察してどう接していけばいいのか考えなさいというアドバイ

スをいただきました。その後は自分自身で考えて、まずは自己開示をして生徒に受け入れてもらおうと考えました。そのため今では名前も覚えてもらい、楽しく接しながら授業のサポートを行っています。個別支援の生徒は特に、「嫌なときはいや」とありのままの感情を表現してくれるため、自分の今の行動や発言が生徒にとって良くなかったのだと気づかせてくれます。生徒から学ぶことがたくさんあり、先生と生徒はともに成長しているのだと強く感じています。そういった素直な生徒がとても愛おしく、教員になろうという決意が固まりました。

今期は、始めたばかりということで私自身が学校や生徒に慣れるということしかできませんでした。しかしこれからは先生の立場も意識して、生徒とどう接してどのように指導、評価を行っているのか視点を変えて学んでいきたいと思います。また、ATの先輩方が行っているように、1回1回目標を立てて、反省と改善という方法も取らなくてはならないと感じます。さらには、専門性の知識も増やして、少しでも生徒の生活の質の向上に貢献できるよう努力していきたいです。

ATとして生徒と関わる

英語英文学科3年 滝沢 葉菜

栗田谷中学校でアシスタント・ティーチャー(以下AT)を始めてからもうすぐ4カ月になります。私がATを始めようと思ったのは、学校で行われている授業を見て将来の参考にしたかったから、またどのような生徒がいるのかを知り、実際に生徒と関わりたかったからです。不安はもちろんありましたが、授業を見られること、生徒と関われることが楽しみでした。

しかしAT初日、自分の想像通りにはいきませんでした。一対一ならいくらでも生徒に話しかけることができるのに、教室の中に入るとなかなか自分から話しかけることができないのです。生徒とたくさん関わりたいと思っていたのに上手くいきませんでした。また、授業補助として教室に入っているにも関わらず、問題を解く手が止まってしまっている生徒や集中力が切れてしまっている生徒に声をかけることをためらってしまいました。

「どうしよう」という気持ちのままあっという間に午前の授業が終わり、逃げるように学校を後にしたことを今でも覚えています。その後も活動が続けていく中で、生徒との関わり方をずっと悩んできました。中でも一番悩んだのは、授業の間の休み時間の過ごし方です。初めは次の時間にATに入る教室の前で待機していたのですが、先生や先輩に悩みを相談したところ、「もったいない」と言われました。休み時間こそ生徒と関わるチャンスだからです。教室に入り、何でもいから話しかけたらよいのではないかとアドバイスをいた

できました。私にとっては勇気がいることですが、現在実行中で、教室に入り少しでも生徒に話しかけるようにしています。まだ会話が弾むほどではなく短文だけのやりとりですが、これからも続けていき自分の存在を生徒に認識してもらいたいです。

ATというのは教師ではありませんし、教育実習生でもありません。そのため、生徒からしたらよく分からない存在なのかもしれません。だからこそたくさん話しかけて、少しでも打ち解けることが大切だと私は思っています。実際、授業中に問題につまずいてしまっている生徒がいて私の方から声をかけたのですが、反応が返ってきませんでした。しかし、その生徒が周りの友達や先生には質問をしている姿を見たとき、信頼関係を築くことが重要なのだと気付きました。また、「ATの先生だから何でも質問していいよ」と先生の方から生徒に伝えてくださることもあります。生徒の方から質問がくることはほとんどありません。そのため、私が生徒を観察して気付くことも大切だと思います。なかなか質問できない生徒も多いと思うので、見逃さないようにしたいです。

私がATに行っているのは週1回で午前だけなので生徒と打ち解けるには相当な時間がかかると思っています。しかし、生徒に話しかけることをためらわず、反応が返ってこなくてもめげずに今後も活動していこうと思います。授業補助という役割を果たすためにも生徒とのコミュニケーションはとても大切だと思うので、今までのように緊張せずに生徒と関わっていけるようにしたいです。何カ月先になるか分かりませんが、いつか生徒に「滝沢先生」と呼んでもらうのが目標です。

ATという立場になって

物質生命化学科2年 高杉 俊

私は今年の4月からATとして栗田谷中学校に行かせていただいております。担当は数学です。正直まだ馴染めきれておらず、お客さんになっており、自分のやるべきことを見つけれられておりません。早く慣れていきたいと思っています。

私が主に担当させていただいているのは、3年生の数学です。毎回小池先生の授業につかせていただき、生徒の様子を伺っていると、クラス全体の雰囲気がよく活発で意欲的な生徒が多いと思います。このような雰囲気のクラスをどのようにして作られたのか、聞いてみたところ「1年生のころからずっと受け持ってきたので、長くかわってこれた分、元気のいいクラスになれたんだと思います。1年のときはただうるさかったですけどね、、、」とおっしゃっていました。生徒とのかかわりを多く持つことの大切さを改めて実感しました。私も次回からのATでは、生徒とかわる時間を増やすために始業前から教室に行き、

生徒との距離感を縮めるためにコミュニケーションを積極的にとっていきたいと思います。少しでも早くクラスに馴染んでいき、授業の内容以外にも色々な相談を生徒から受けられるような信頼を得られるように努力します。

授業内容ですが、基本的な定理を踏まえつつ生徒たちがわかりやすいようにゲームや定理の使い道など具体的な例を挙げたうえで行っており、生徒たちの関心を引いたうえでの授業を行ってあります。また単位変換を、問題を解くうえで導入しています。単位変換は、私がいま大学で履修している化学や物理において非常に大切なものであり、ある程度習慣づけしていないと定着しないものであります。それを中3の時期あるいはもっと前から導入していたと考えると、先生は先を見据えた学習をしており自分が授業を行う立場になった時には、積極的に使っていきたいとおもいました。

私自身未熟であり、正直現段階においてどのようにクラスを作っていくか、どのような授業運営をしていけばいいのかがはっきりとわかりません。今回ATに行くことを決心した理由は、現場の空気を早い段階で知っておきたいと思ったからです。教職科目において学んでいる知識を用いて、早く学校に足を運んでみたいという私の思いを叶えてくださる場を与えていただいたことに感謝しております。今後とも授業運営の仕方やコミュニケーションの取り方、また自分自身が目指しているみんなが笑顔で満ち溢れた明るい学級を作っていくためにこの体験を今後も続けていき、そのために必要なことをこの体験の中で、一つでも多く盗んでいきたいと思っています。

ATとしての目標

人間科学科2年 田畑 龍人

私は今年度の5月から栗田谷中学校にて、水曜日の1時間目の学活と2・3時間目の体育の授業でアシスタントティーチャーとして活動しています。5月からの活動のため、現時点でまだ2回しか活動していませんが、主に1年生の授業を担当しています。しかし2回という短い中でも、学ぶことはたくさんありました。

初回の学活では、個別支援学級に行きました。その日は校外学習の前日ということで学年集会を行い、しおりの読み合わせをしました。個別支援の生徒の中には少し落ち着かない子もいるので注意をするのですが、一人一人個性があり、それを踏まえつつ話しかけないと聞こうとすらしなない子もいます。そのため個別支援では、回数を重ねて、生徒の個性を知っていくことが大切だと思います。2回目では、1年3組の朝の会から1時間目の学活に参加しました。まず先生が自己紹介の時間を作ってくれたため、その後の生徒とのコ

コミュニケーションを取りやすくできるように興味を沸かせるような話をしたかったのですが、ありきたりな自己紹介しかできませんでした。授業の初めでは、自分も消極的になってしまい、生徒から話しかけられるのを待っていましたが、ほとんど会話ができず、第一印象も原因のひとつだと思いました。その後は少しずつ自分から授業に関することや改めて細かい自己紹介をすることにより、生徒たちも興味を持ち始めてくれて、会話を弾ませることができました。

2時間目の体育では走り幅跳びを行ったのですが、初めてのATのためとても緊張してしまい、ほとんど何もすることができませんでした。生徒たちはとても学習意欲があり、跳躍練習をして少しでも記録を伸ばそうとしていて、その頑張りにも手助けをできなかったことに自分の無力感を感じました。2回目にはマット運動を行いました。前回のような後悔をしないために、気づいたことには少しでも助言をしていきました。すると、自然と最初はやる気のなかった生徒も何度もやるようになり、私に観てもらいたいとお願いしてきてくれることが多くなりました。挑戦していたその技が出来るようになり、嬉しそうな顔を見られることが私にとっても大きな達成感となりました。

しかし、私にはまだ十分な説明力が身につけていません、現在は何度も教えてやっと理解できている状態なので、多くの生徒ができるようになるためにはこのままでは不可能です。そのためにとにかく短い説明でわかりやすく教えられように、これからも実際の教育現場にて実践経験を通して、また生徒たちの感想も取り入れよりよい指導ができるようにしていきたいと思っています。そして授業以外でも生徒たちとコミュニケーションを多くとり、日常場面でも信頼を得られるような教師像を目指していきたいです。

学校生活での生徒達

科目等履修生 水谷 優秀

今年の四月から一週間に一度、栗田谷中学校でATをさせていただいております。一年ほど前から、母校で部活動指導をしていたのですが、部活動をしている生徒だけではなく、授業を受けてい

る生徒達にも深く関わりたく、ボランティア活動としてATをすることを決意しました。

ボランティア初日の前夜は、緊張のあまり睡眠を取ることができず、どうなることかと思いましたが、職員室での紹介の挨拶で先生方に温かい声援をもらい、気合を入れてATをすることができました。また、若い先生方からは、是非自分の授業を見に来てほしいと声をかけていただき、緊張がほぐれました。初日の活動では生徒も少し警戒した様子で、うまくふれあうことができず、私自身も一歩引いた形で一時間目を過ごしてしまいました。気合を入れなおして、廊下ですれ違う生徒に「こんにちは!」と挨拶をすると、生徒も元氣よく「こんにちは!」と返事をしてくれました。ただ挨拶をしただけなのですが、なぜだか生徒から元氣をもらえたような気分になり、挨拶の大切さを学ぶことができました。

次の週からは積極的に生徒と接するように心がけ、ATに臨みました。とにかくこちらから生徒に話をかけるようにし、問題がわからなそうな生徒だけでなく、わかっていそうな生徒に対しても「問題できた?」と声をかけることによって、多くの生徒と接することができました。生徒と会話するときに気づいたことは、私が生徒に一方的に話すだけではなく、生徒に質問を投げかけることで、生徒は笑顔で答えてくれました。話を聞かせるだけでなく、話させることの重要性を学ぶことができました。

先生方は、授業の後にアドバイスをくださったり、今回の授業はどのような構成だったかなどを教えてくださりました。また、授業後には「ありがとうございました。」と言われるのが嬉しかったです。もちろん私からお礼の言葉を言うのですが、先生方からお礼の言葉をいただくことによって、よりATを頑張ろうという気持ちになりました。栗田谷中学校の先生方には、本当に感謝の気持ちに溢れています。

これからも生徒から元氣をもらい、また生徒に元氣をあげるような教師になるように、努めていきたいと思っています。

発行日：2015年7月17日

発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL：045-481-5661(内線4352)

FAX：045-413-4154

E-MAIL：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL：http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp